

お祝いのことば

宇陀市長 金 剛 一 智

本日、人生の新たな一步を踏み出された皆さん、おめでとうございます。

これまでの20年、約7300日という長い期間、保護者をはじめ多くの方々に守られ、友人や地域の方々との関わりの中で、今日まで様々なことを学んでこられたと思います。まず、周りの方々に感謝する心を忘れず、大切にさせていただきたいと思います。

「二十歳のつどい」は、皆さんが社会人として心身ともに成長されることを願うものです。私は毎年、「皆さんは全員が奇跡の存在です」と呼び掛けています。

世界では戦争や病気、貧困など様々な理由で二十歳の誕生日を迎えることができなかった子ども・青年がどのくらいいるのでしょうか。皆さんはこうして二十歳を迎えることができました。周囲の人の献身的な助け、自らの生きる力、そして数えきれない幸運が重なった奇跡に感謝してください。そんな自分を大切に、周りの人を大切にしてください。

現在、気候変動、コロナ禍、戦争、人口減少、少子高齢化などでこれまでの社会や価値観が変わりつつあることを感じます。誰もが解のない時代を生きることになるとも言われています。新しい時代への期待と不安が交錯していると思いますが、昔からどの時代の若者も、その時代の荒波にもがきながらも、顔を上げて、世のため人のため、自らの未来を切り拓いてきたはずです。そのバトンは今皆さんに渡されました。われわれも伴走していきます。

皆さんを育んだ宇陀の大地、空、風をいつも感じて、ゆっくりと、前へ、前へ、二十歳の皆さんに幸多かれ！

